

令和 6 年度 年間業務報告書

株式会社南紀白浜エアポート

2025 年 4 月

空港運営 6 年目となる当期も事業計画（大枠では①空港活性化、②維持管理、③安全・保安の 3 項目に関する計画）に沿って以下のとおり事業を実施しました。

① 空港活性化に関する計画

- ・目標旅客数は 23.0 万人で、昨年度より増の 23.5 万人の利用がありました。
- ・航空需要を高めるため、宮崎・秋田・山口などで和歌山ワーケーションを紹介しました。
小田急電鉄・名古屋鉄道・名鉄コム・西日本鉄道・西鉄情報システムなどの私鉄各社に対してワーケーションを通じた働き方改革や DX 推進について紹介しました。
また、秋田銀行・岩手銀行・青森銀行の取引先企業に和歌山県での企業誘致について紹介し、串本ロケット関連の事業創出や企業誘致について和歌山大学などと検討を開始しました。
- ・地元の農家・漁師・林業などの一次産業を組み合わせた企業向けプログラムを造成したり、SDGs をテーマにした都市部企業と地元企業のコラボレーションプログラムやシニア人材向けセカンドキャリアプログラムを造成し、提供しました。
- ・地元からの航空需要の喚起策として、20 団体以上・700 名以上に対して空港バックヤードツアーを開催し、空港を身近に感じ、より親しんでもらう機会を設け潜在需要を創出しました。また、和歌山県・JAL とコラボしたガンダム観光バスの受け入れを実施しました。
- ・県内 DMO 会議などで地域間連携などインバウンド受入の連携体制を強化し、AI を活用した多言語対応機能の AI さくらさんを導入しました。また、観光庁の地域周遊・長期滞在促進の登録専門家として官公庁の会議に出席し、全国の有識者と連携したインバウンド誘致について協議を実施しました。
- ・エアライン誘致の強化策として最重要事項は JAL 定期便の維持と拡大で、乗継も含めた新規需要創出および拡大に向け、県と連携した滑走路延長や利用促進の機運醸成を実施しました。5 月に富裕層向けサービス拡充による受入環境整備の一環として、リムジンのエプロン乗り入れサービスを実施しました。毎年チャーター便運航している FDA には誘致営業を継続し、25 便の国内チャーターを受入、海外チャーター便については、5 月と 1 月に韓国からのチャーターを受入しました。
- ・空港および地域における利便性を向上させるため、宿泊・交通・飲食・体験の横断的におもてなしの拡充をしました。定期便の時刻表に合わせた空港リムジンバスやオンデマンドバスの運行を実施し、今後の二次交通について協議を実施しました。着地型旅行事業で約 600 件の受入手配をしました。

②維持管理に関する計画

- ・日常の維持管理については、日常点検、巡回点検、緊急点検を適切に実施し、検知され

た損傷を SOCOCA（巡回点検支援システム）に点検毎に随時記録し、補修、修繕が必要であれば緊急修繕を実施しました。更に、要補修か経過観察かの判断に迷う場合は、技術専門家に相談及び対応工法を検討後、必要に応じ随時補修を実施しました。

- ・更新工事については、和歌山県空港部局及び工事部局と工事状況にあわせ、随時協議を実施し、今年度予定工事は円滑に実施しました。
- ・新技術の導入推進（空港 DX の推進）については、ドライブレコーダー×AI を活用した滑走路点検をより高度化するため、点検車両の自動運転化実験を実施しました。また、草刈りロボットを一部実戦投入し、稼働中です。映像解析技術を用いた障害物検知業務の効率化・高度化を図る実証実験を実施しました。

③安全・保安に関する計画

- ・セーフティ・セキュリティの両面において安全確保に努め、制限区域内の死傷者ゼロ、航空機損傷事故ゼロ、空港ビル・クリーンエリアへの不法侵入事案発生件数ゼロでした。
- ・空港スタッフ一体となった安全・保安意識の増強に努め、空港委員会（セーフティ）や空港保安委員会（セキュリティ）を適時実施しました。
- ・訓練については、航空機不法奪取訓練、航空機事故消火救難訓練、不法侵入事案対応訓練、航空機事故応急対応訓練を実施しました。
- ・3層の視点からのモニタリングにより、安全保安に関する業務品質の維持・改善に努めました。3層とは、日常業務管理、内部モニタリング、外部有識者を加えた外部モニタリングで継続的に実施し、空港の安全安心を継続的に担保しています。
- ・リスク管理会議を毎月1回開催し、ハザードを見極め、リスク評価し、改善・予防措置を実行しました。

以上